

AI活用プロダクトからの出力を レビューする時のしんどさを減らす処方箋

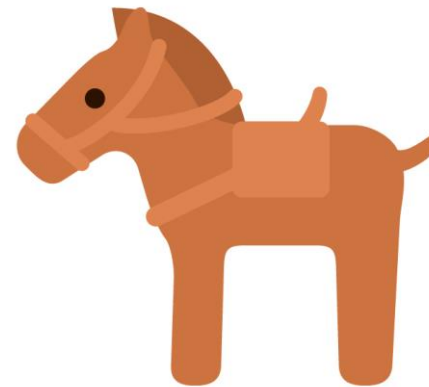
株式会社ベリサーブ

藤原 考功

2026年7月3日

自己紹介

- ソフトウェアテスト屋さん
- JSTQB技術委員
- 元 高槻市民



加速しよう、未来を。

 VERISERVE

このプロダクトのテストをしていて思ったこと

レビューがしんどい！

ここでいうレビューとは

- 「商品レビュー」や「映画レビュー」のニュアンスに近いもの
- 開発中のプロダクトに触って感想や評価を述べる

生成AI（大規模言語モデル）活用における3つの「しんどさ」

- ① 長い！
- ② ブレる！
- ③ 無責任！

しんどさ① 長い！

- 生成AIは、認知負荷について忖度しない
- あればあるだけ出力する
- 人間から見ると長くなりがち

しんどさ② ブレる！

- 生成AIは、リクエストのたびに新しい成果物を生成する
- 毎回微妙に内容が変わる
- 一度の生成結果だけでは良しあしを十分に判断できない

しんどさ③ 無責任！

- 生成AIは、ただ結果のみを出力する
- 生成AI自ら説明してくれない
- 責任だけが自分に重くのしかかる

しんどさの理由

- 生成AIが「そういうもの」だから
- 決定論的にふるまうアルゴリズムとは異なる
- もちろん、人間とも異なる

どうすればいいのか

- 生成AIの特徴を理解して使う
- 従来のメンタルモデルを意識的に捨てる

生成AI(大規模言語モデル)の特徴 (2026/06時点)

- 大きな意味では「関数」である
- 出力内容は確率的に変化する
- 論理的な思考ではなく推論をする

処方箋① 区切る

- 生成AIは、大きな意味では「関数」である
 - ▶ 良い出力を得たければ入力を改善する
- 使う側が入力を工夫する
- ちょうどいい「区切り」を模索する
 - ▶ 例：文字数を制限する、範囲を絞る、抽象度を指定する

事例① 区切る

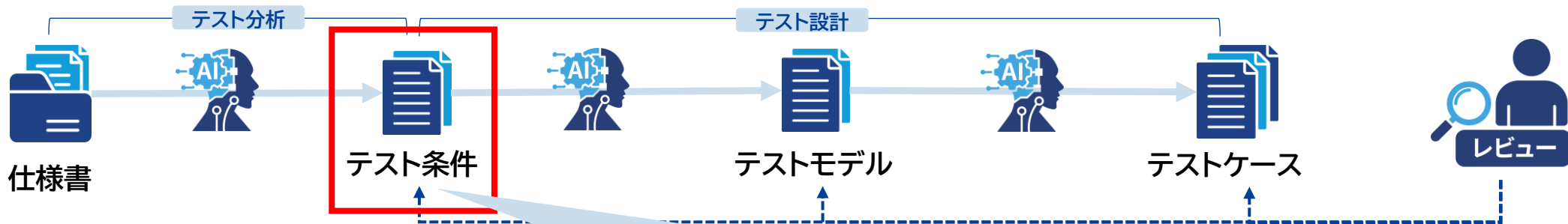
・プロンプト例

- ▶「この仕様書から、**配送料**に関するテスト条件を記述してください」
- ▶「この仕様書の、項番**1.1.2.**に関するテスト条件を記述してください」

事例① 区切る (TESTRAの場合)



テストのエキスパートでなくとも、残存リスクを段階的に評価することで、
納得感をもって説明可能なテスト分析・テスト設計を遂行できるサービス



いきなりテストケースを作らず、
まずはテスト条件だけレビューする

[illegible]

処方箋② 確率的なふるまいを前提とする

- 生成AIの出力内容は確率的に変化する
 - ▶ そういう「仕様」だと受け入れることが重要
- 使う側が、譲れないポイントを見極める
- ブレを軽減/修正する仕組みを設ける
 - ▶ 例：外からルールを与える、別のLLMにチェックさせる

事例② 確率的なふるまいを前提とする

- LLM(A)で、テストケース.csvを出力する
- LLM(B)に、機能名.txtを与える
- プロンプト例
 - ▶ 「テストケース.csvを確認し、機能名が機能名.txtに存在するかチェックしてください。存在しない場合は、行番号と機能名をエラーリスト.csvに出力してください」

処方箋③ 説明性の獲得プロセスを設計する

- 生成AIは、論理的な思考ではなく推論をする
 - ▶ 論理的な思考を模倣することはできる
- 使う側が、説明性を獲得したいポイントを見極める
- 生成AIに(疑似的に)思考させ、思考過程を残す
 - ▶ 人間がゼロから考えることは避けたい

事例③ 説明性の獲得プロセスを設計する

・プロンプト例

- ▶「テストケース.csvを確認し、機能名が機能名.txtに存在するかチェックしてください。存在しない場合は機能名を修正し、元の値、修正後の値、修正理由を別シートに出力してください」

処方箋④ 従来のメンタルモデルを意識的に捨てる

- 従来の業務プロセスや思考に生成AIをあてはめない
- 生成AIの特徴を踏まえた業務プロセスを考える
- 古い思考を意識的に捨てる

事例④ 従来のメンタルモデルを意識的に捨てる

- 生成AIの仕組みを学ぶ
- 生成AIを実際に使ってみる
- 「しんどさ」の解消法を模索する

実際に利用する技術や仕組み

- プロンプトの工夫
 - スコープを区切る指示、思考過程のログ出力指示
- 別の生成AIによるチェック

実際に利用する技術や仕組み（今後の予定）

- RAGなど、外部データを用いる技術の活用
- AIエージェントの活用

まとめ

- レビュー疲れの原因は、生成AIに対する理解不足
- 仕組みを学び、より良いプロセスを設計しよう
- 古いメンタルモデルを捨てよう



26-001



イノベーションを加速させる
知恵と品質技術にアクセスする
テクノロジーライフメディア

www.veriserve.co.jp/helloqualityworld/